

2009.8.21(金)

徳島新聞

モザンビーク支援へ

徳島大
内藤准教授

現地で眼科医療指導

きょう出発

白内障などで失明する人が多いアフリカ南東部のモザンビークの眼科医療を支援するため、徳島大学病院眼科の内藤毅准教授(54)＝徳島市南佐古三番町＝が21日、現地へ

出発する。医療支援のための訪問は昨年6月に続き2回目。

内藤准教授は、非政府組織(NGO)「アフリカの眼科医療を支援する

会」メンバーの新潟大眼科医ら3人と、眼科医がいないへき地のムエタを訪問。50人を目標に白内障の手術を行う。首都・マプトにあるマプト中央

病院の研修医2人もムエタに同行してもらい、手術方法などを指導。30日に帰国する。

内藤准教授は「今回はモザンビーク政府の要請で内藤准教授は200

7年8月、同国を訪問。強い紫外線や栄養不足で人口の約1%が失明していることや、医師を育て

情を視察した。支援の必要性を感じ、昨年5月にNGOを設立し、同国の眼科医療の向上に取り組んでいる。